

今年の山小屋酒場は、犀川ダムまでの林道の通行止めが8月までかかり、秋だけに行いました。ただし、秋も巨大ハチの巣に悪天候も重なり思ったような作業はできませんでした。そこで結果報告として、7月に20期の深田氏と行った偵察の様、9月に現役がハチの巣を見つけた時の様子、10月に行った山小屋酒場の3つを、ショートストーリー的？に最近のベルクハイムの状況報告も兼ねて紹介したいと思います。

7月の偵察（記：20期 深田）

まだ、林道の通行止めが続いており、寺津発電所から往復20km以上の歩行です。蒸し暑い日が続いているので体力が持つか心配でしたが、幸い涼しい日で日差しも午前中だけでした。

とても久しぶりの犀奥なので、どのくらい変わったか道中が楽しみでしたが、自分の記憶とほとんど変わっておらず、とてもなつかしく思いました。変化点を上げるとすれば

- ・桂さんの遭難地点の石積みが見当たらない。
- ・高桑さんの慰霊碑手前の斜面が崩壊して押し出している（最近のもの）
- ・つり橋手前のガレ場が草木に覆われてしまった。（結構歩きづらい）
- ・水位観測所上流の斜面が出水でえぐられ、崩壊部分のすぐ上に巻き道がつけられている。（結構ヤバイ）

の4点ぐらいです。

ベルクハイムの戸をあけると、室内の床一面に敷き詰めたようにカメムシの死骸が溜まっていました。中へ入ろうとした時に、壁ぎわの紙がカサカサと音を立てたかと思うと、紙の下から太さ4、5センチ、長さ1.2m以上と思われる大ヘビが現れ、コンクリートの壁と木の壁の隙間から逃げていきました。犀奥は人間にとって決して快適な場所ではないけれども、その分圧倒的に人を寄せ付けない自然が残っていることをつくづく感じました。3箇所の窓を開け放っ

てかび臭い空気を入れ替え、カメムシを一掃して昼食、白山・ベルクハイムの記念の赤布を見回すと、2次から9次までのうちなぜか4次（18～21期）の布だけがポロポロになって垂れ下がっていました。

帰路、高桑さんの碑の周りが草ぼうぼうだったけど、カマを持参していなかったので、手だけ合わせて帰ってきました。

9月に現役がハチの巣を見つけました（記：現役3年の渥美 君）

9月28日に偵察に行ってきました。

まず、犀川ダムからベルクハイムまでの道ですが、ところどころ崩落している場所があり、一応通れましたが、備え付けのロープに頼らないといけないなど、やや危険でした。また、もう少しで道が崩れるのではないかと思われる箇所もありました。雑草等、草で道が塞がれているようなことはありませんでした。

次に高三郎山ですが、取り付きから延々と藪こぎでした。かなり急登だったためコースタイムの2倍の時間がかかり、日暮れまでに帰ってこれそうになかったため途中で引き返しました。藪のため登山道とそうでないところの見分けが困難で、下る際に遭難しかけました。一応赤テープはありましたがかなり危険だと思われます。2日間で整備するのはかなり困難だと思われます。

最後にベルクハイムですが、山小屋の周りもかなり草が生い茂っていました。極めつけは、山小屋の中に巨大なハチの巣があったことです。これは素人の手には負えない大きさです。これをどうにかしないと、小屋に泊まることは不可能だと思えます。



10月の山小屋酒場 ～ハチの巣退治～  
(記：20期 久富)

10月22日(土)日帰りでベルクハイムへ行ってきました。現役諸君は犀川ダムまで同行しましたが、悪天を考慮して中止を決定し引き上げて行きました。雨の中、我々OB5名は予定どおりベルクハイムへと向かいました。

山小屋に着くと、合津さんはしばらく観察した後、ハチの巣をカマでバッサリと切り落とし、ビニール袋につめました。悩みの種だったハチの巣は、合津さんの手にかかりいとも簡単に駆除されました。



ハチが侵入した壁板を張替え、小屋の周辺の草刈りをし、雨量計付近の高巻き道を整備し(疲れてきたので途中で切り上げ)、15時にダムで解散しました。

倉谷は林道の崩壊が進み、年々入りにくくなってきています。ダムまでの県道の通行も楽観できません。こまめに状況を把握して、来年春の山小屋酒場に備えたいと思います。

ハチの巣の件で多くの方からアドバイスをいただきました。当日は吉田穂積さんに現役をダムまで車で送っていただきました。また、鳥越君には15時に現役を迎えにきてもらうことになっていました。お忙しい中都合をつけていただきありがとうございました。

今回は当初の予定どおりとはいきませんでした。写真のように大きなハチの巣を駆除できたので善ししたいと思います。

OB参加者：合津(6期) 佐野(15期)  
北川(16期) 深田(20期)  
久富(20期)

